

# 専門部会報告

〔 第4期産業振興計画の取り組みに対する評価と意見 〕

1	農業部会	.....	1
2	林業部会	.....	2
3	水産業部会	.....	3
4	商工業部会	.....	4
5	観光部会	.....	5

## <農業分野>

### 専門部会での評価と主な意見

第4期産業振興計画 ver.3の進捗状況及び令和4年度の取り組みについて委員の了承を得られた。

事務局からの説明に対し、現在の農業を取り巻く厳しい状況や、それを乗り越えるための生産技術の開発・普及や販売戦略の強化などについて意見があった。

#### <主な意見>

- 原材料価格等の高騰下にあり、生産者を取り巻く環境は大変厳しい状況だが、県内で頑張っている生産者が生産意欲を減退させることなく、農業を続けていけるように取り組んでいただきたい
- 若い世代で就農している者もいるが、コロナ禍や原材料価格等の高騰の影響で、苦労させてしまっているのではないかと心配している
- かつては「高知産」というブランドにより高く売れていた青果物が、現在は全国各地で作られるようになり、以前のように高く売れない状況が発生している。県内の生産者が潤えるような生産技術の開発・普及や販売戦略を考えていただきたい
- 現在かつてないほど厳しい状況にあるので、IoP プロジェクトについては、関連する組織や企業等も含めて農家所得の向上に繋がるよう取り組んでいただきたい
- 生産から流通まで一連の連携を進めていけば、高知県の農業は明るいと感じた。生活に必要な農業を守っていくために消費者としても、こうした取り組みを理解していくことが必要

## <林業分野>

### 専門部会での評価と主な意見

これまでの取組状況や令和4年度の進め方について委員の了承を得られた。

また、各委員からは、再生林の促進、担い手の確保、大径材の製材や販売の促進、森林環境譲与税の活用の推進等に関する意見があった。

### <主な意見>

- 再生林の促進には林道が必要であり、市町村の要望を反映した予算の確保と計画的な整備をお願いしたい。
- 再生林意欲を高めるため、再生林をしてから次の収穫まで数十年間の育林期間における土地所有者の負担について、CO2の吸収源として貢献していることも踏まえ、軽減策の検討をお願いしたい。
- 人口減少の中、就業者数の飛躍的な増加は望みづらい。一人あたりの生産性を高めていくことが重要。モデル的なものでよいので、生産性の情報を活用し、生産性改善の糸口などを示してほしい。
- 今後は、大径材の生産が増加してくるため、東北のように加工技術を工夫した製材を行い販売していく必要がある。
- 製材事業者の事業戦略について、その成果の横展開をお願いしたい。
- グリーンLPガスの生産や、県外を含めて今後増加が見込まれるバイオマス発電等にかかる木質資源を賄えるのか懸念されるが、A・B材の需要を増やすことにより、C・D材などバイオマス向けの端材を増やすことが重要。また、早生樹の活用も含めた、コストを掛けないバイオマス向けの施業体系も検討してはどうか。
- 最近では、一定の経験を積むと、別の会社で経験を積みたいという考えを持った就業者もいることから、何らかの対応が必要ではないか。
- 市町村の公的施設の木造化について、市町村からなかなか理解が得られない。県からも更なる働きかけをお願いしたい。
- 市町村の森林環境譲与税について、課税が始まる令和6年度においては、令和4年度の活用実績に焦点が当たると言われている。森林整備が進むよう県から積極的な譲与税の活用の提案をお願いする。

## <水産業分野>

### 専門部会での評価と主な意見

令和3年度の進捗状況と令和4年度の進め方、連携テーマの令和4年度の進め方については、原案どおり了承を得られた。

また、事務局からの説明に対し、部会員から以下のとおり意見・要望等が出された。

### <主な意見>

- 計画には地産地消が入っていないが、もっと高知の魚を高知で食べる取り組みにも力を入れてもいいのではないか。
- 県外の方が高知に来て、「高知の魚が美味しい」と言ってくれるのは、高知で食べると新鮮だから。高知市公設水産地方卸売市場は、高知の魚を高知で売って、高知に魚がない時には県外から仕入れてきて県民に魚を供給している。高知市公設水産地方卸売市場の今後についても検討してもらいたい。
- メジカの不漁が続いているなかで、宗田節をはじめとするメジカ加工業を存続させるためには、国内外の産地から集めないといけない。一方で円安の影響もあり、メジカの仕入単価が50円上がると産業として成り立たなくなる。
- メジカが釣れない状況が続いている中で、現在行われているひき縄だけでなく他の漁法での漁獲も考えていかないといけないのではないかと。今後、メジカ産業が成り立たなくなるのではないかと危機感を持っている。
- 産地市場では自動計量システムの導入を進めているが、漁協の職員数がかかり減ってきており、それだけで現場がまわるとも思えない状況。
- また、産地市場の統合は喫緊の課題だが、市場統合する施設は、衛生管理型市場である必要があるため、費用負担の面で漁協が単独で産地市場を開設できるのか非常に不安に思っている。
- 両方の面において、早急に手を打たないと漁協が成り立たなくなるのではないかと強い危機感を持っている。

## ＜商工業分野＞

### 専門部会での評価と主な意見

令和4年度の進捗状況については、事務局案が原案どおり了承。その際、事務局からの説明に対し、部会員から以下のような意見・要望等が出された。

#### ＜主な意見＞

- 製造業にとって、原油高や資材の高騰が一番頭が痛いところで緊迫した状況にある。自社の事業を検証し、製造ライン・品種の整理統合や、工場を閉鎖することまでも選択肢としてあり得る状況にあり、こうした状況は製造業全般の共通課題と考える。
- 商品開発のデジタル化を進めるにあたり、人手不足もあって理科系の採用が厳しい状況。社内で人材を地道に育てていくしかないと考えているが、技術系のデジタル人材育成の取り組みがさらに必要。
- 外国人材を呼び込む上で、高知県は賃金が低いというハンデがあり、「選ばれる高知県」というキーワードは大変重要である。今後外国人労働者が増えてくると、不適切な受け入れ先企業が出てくるなどの課題も想定されるため、官民一体の緻密なフォロー体制を築いていくことが重要。
- 流通業・小売業は、コロナの影響で大変苦しく、努力しても売上が上がらないのが現実。身を削りながらなんとか事業継続して廃業も少ない状況でここまで来ているが、限度が来ている。県の融資が来年、再来年で据置期間が終了することもあり、先行きがとても不安であるという声をよく聞く。
- 消費者の意識が、値段が安いだけでなく利便性やライフスタイルに合っているかなど心の満足感を重要視するようになってきている。こうした消費者のライフスタイルや意識の変化を、商店街の経営者に認識し勉強してもらい機会が必要であり、たとえデジタル化を進めたとしても、消費者ニーズを把握できていなければ集客できないのではないかと。

## <観光分野>

### 専門部会での評価と主な意見

令和4年度の取り組みについては、原案どおり了承された。

事務局から説明した重点的な取り組みについて、部会員から以下のとおり意見・要望等が出された。

#### <連続テレビ小説を生かした観光振興>

- 高知県観光カレッジ修了生を草花ガイドとして育成をすれば、即戦力で活用できるので、是非、連携をお願いしたい。
- NHK連続テレビ小説「らんまん」は、年配の方が楽しみにしている印象がある。ターゲットに向けたキーワードとして、健康や地域を生かしたスポーツツーリズムに繋がるような仕組み作りを検討してほしい。
- 本県の豊かな野山は学びの場や健康維持の場であり、これを生かして体験型の学びの柱を入れると外国の方や移住を考える親子なども興味を持ち、より豊かなコンテンツになるのではないかと考える。

#### <サステナブルツーリズム推進に向けた取り組み>

- 草花ガイドの養成等は、サステナブルへの方向性と一致しているため、「らんまん」に向けた取り組みが、そのままサステナブルの取り組みにもなると思う。
- 日本全国で、サステナブルを活用した情報発信の動きが出ている。2025年には大阪・関西万博も控えているので、それまでに他県よりも先行してサステナブルと言えば高知県というイメージを作り、情報発信をする必要がある。
- サステナブルツーリズムは、ストーリー付けが重要で、ストーリーに科学的なエビデンスをどう担保するのが大切である。そのため、エビデンスは県が担保する必要がある。

#### <その他>

- 多くの観光客は、高知県は遠く、交通費がかかると思っていることが大きなハードルとなっていたが、高知県観光リカバリーキャンペーンの交通費助成という他県にない支援のおかげで誘客効果が出ている。次年度も是非、継続してほしい。
- 観光客に宿泊してもらおう仕組みとして、路面電車の1日乗車券を使用して、遍路道を歩き牧野植物園に行った後、高知市内の街巡りなどを行うようにしてはどうか。
- 大阪の経済同友会からは、大阪・関西万博の課題として機運醸成が挙げられているが、他県に先行して県単独のブースを出すようにすれば、良い先行事例となり、2年後3年後に向けてアドバンテージが取れると考える。